

## 中国における「コミュニティを基盤としたソーシャルワーク・サービス」 (社区社会工作服務)に関する研究

ーソーシャル・キャピタルの形成ルートに焦点をあててー

○ 同志社大学大学院 氏名 陳凌雲 (010057)

[キーワード] 社区社会工作服務、ソーシャル・キャピタル、形成ルート

### 1. 研究目的

近年、日本だけではなく、中国においても社会の個人化が進んでいるといわれる。それは、個々人が一人であることを志向するという個人の問題として捉えるべき側面だけではなく、社会全体の「つながりの脆弱化」として捉えるべき問題だと考えられる。「個人と個人の間」、「家族と家族の間」、「世代と世代の間」、「階層と階層の間」がそれぞれ分断し、その結果「孤立」、「近隣関係の希薄化」、「世代の分断」、「格差社会」という裂け目が社会の中に広がっているのである。

このような社会状況を背景として、2013年に中国民政部・財政部は「コミュニティを基盤としたソーシャルワーク・サービスを加速的に推進することに関するガイドライン（中国語：关于加快推进社区社会工作服務的意見）」を打ち出し、従来、コミュニティ・サービス（中国語：社区服務）政策において、地域住民に多様なサービスを提供してきた政府、社区居民委員会、草根 NGO 団体などの担い手を拡充するとともに、専門的な社会福祉従事者が地域住民の参加支援などの社会問題解決に資するコミュニティを基盤としたソーシャルワーク・サービスを提供すべきであるという方針を示した。しかしながら、政策が打ち出されても、実際にサービスを提供するプログラムの実施により地域社会にどのような影響を与えたのか、特に地域住民の「つながりの脆弱化」問題解決に資する地域参加支援プログラムの実施にあたってどのような具体的な効果をもたらしているのかに関する研究がいまだに不足しているとみられている。

地域参加支援プログラムにおいて、つながりの再構築に向けて、ソーシャルワーカーが顔を合わせて話し合いを行う活動の機会や場所を提供するだけでなく、参加者が活動に参加するにあたって構築されたソーシャル・ネットワークに埋め込まれた資源を発見・活用することが重要であると考えられる。すなわち、ソーシャル・キャピタルの視点により地域参加支援プログラムの効果を検討することが求められている。

そこで、本研究では、地域参加支援プログラムを実施するなかで、参加者のソーシャル・キャピタルがどのように形成されたのか、を明らかにすることを研究目的とする。

### 2. 研究の視点および方法

中国で実施された地域参加支援プログラムの参加者5名のインタビュー調査を半構造化

面接により実施した（2024年3月から4月）。そして、インタビューで得られたデータをもとに、質的データ分析手法を用いてデータ分析を行い、ソーシャル・キャピタルの視点により考察する。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、同志社大学社会学部・社会学研究科において「人を対象とする研究の倫理審査」を受けた（申請番号 2023\_0009）。調査の趣旨および目的、内容と、調査結果を個人が特定されないような形で公表することを説明し、承諾を得た。本報告に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。

### 4. 研究結果

本研究は、インタビュー調査のデータから「家庭関係の改善」、「隣人関係の構築」「多世代交流の促進」、「地域関係機関との連携」4つのカテゴリーが抽出された。まず「家庭関係の改善」については、仕事で普段なかなか家族と触れ合う時間が少ないという女性参加者は、「今回の活動は、私たち家族にとって珍しく一緒に楽しんで交流できる機会になった。手芸品を作っている時、夫は子供がライターなどを使う危ない作業を率先して手伝ってくれて、子供も私と夫に「これで合ってる？」と何度も聞いていた」と語り、親子関係の改善がみられた。次に「隣人関係の構築」については、普段は地域活動に参加しないという女性参加者は、「普段はあいさつ程度しかしない近所の方も今回の活動に参加していて、その方と子育ての経験を分かち合うことができた」と語り、隣人との距離が縮まることがみられた。さらに「多世代交流の促進」については、夫に先立たれ一人暮らしをしている高齢の女性参加者は、「足が不自由だけれど、今回の活動で子供たちと一緒に手芸品を作っていた時、子供たちに「手伝って」と頼まれて、まだ私も年寄りじゃないんだなと思った」と語り、高齢になるにもかかわらず人生の生きがいが多世代交流により見つけたとみられた。最後に「地域関係機関との連携」については、娘にボランティア活動にもっと参加してほしいと願う男性参加者は、「管理会社の方との連絡を通じて今回の活動が開催されることを知った。管理会社と、この活動を主催してくださった非営利団体の方々には、娘が地域ボランティアに参加する機会を与えてくださったことに感謝している」と語り、関係機関との連絡を通じてボランティア活動への参加にもつながることがみられた。

### 5. 考察

「家庭関係の改善」や「隣人関係の構築」は、参加者間の親密な関係性の構築を示唆するため、結合型ソーシャル・キャピタルとの関連、「多世代交流の促進」は、異なる世代間のつながりを生み出すため、橋渡し型ソーシャル・キャピタルとの関連、「地域関係機関との連携」は、地域内の異なる主体間の協力関係を示唆するため、連結型ソーシャル・キャピタルとの関連が考えられる。そのため、本研究は、地域参加支援プログラムが、ソーシャル・キャピタルを形成する多様なルートを提供しうる可能性を示唆した。

川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎（2017）『地域福祉論』ミネルヴァ書房。